みどりを育む
横造協だより

発　行　Vol.40
一般社団法人　横浜市造園協会
緑の諮問委員会
横浜市中区尾上町1-6　VORT 横浜関内Ⅱ７階
TEL 045-662-9897　FAX 045-664-5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

緑が生み出す横浜らしさ

横浜市環境創造局みどりアップ推進担当理事

橋本　健

はじめに

現計画のみどりアップ計画（２０１４～２０１８）は今年度が最終年になります。来年度からの緑の取組について、これまでも検討を進めてまいりましたが、先の第３回市会定例会で「横浜みどり税条例の一部改正」の議案が可決され、横浜みどり税を5年間継続することが決まり、引き続きみどりアップ計画の事業を行うことができるようになりました。

これも計画実施への貴協会及び会員の皆様方のご理解、ご協力のおかげだと思います。市民超過課税による負担を市民、企業の皆様におかけすることを重く受け止め、みどりアップ計画の取組を引き続きしっかり行っていくつもりです。

次期みどりアップ計画（２０１９～２０２３）の主な特徴

これまで取り組んできた「横浜みどりアップ計画」は緑地保全制度による樹林地の保全や、地域での緑の創出が進むなどの成果があがっていることから、計画の理念や目標、基本的な枠組みや主な取り組みは継承します。

そして左記の特徴があります。

・樹林地の新指定目標は３００haとし、まとまりのある樹林地の指定を重点的に推進

・樹林地の所有者の維持管理の負担軽減のための支援策の拡充

・老木化した桜並木など地域で愛されている並木の再生

・フェアの成果を継承し、都心臨海部や里山ガーデンで魅力的な空間づくりを進めるとともに、地域に根ざした各区の取り組みをみどりアップ計画で推進

ガーデンネックレス横浜の展開

昨年開催した第33回全国都市緑化よこはまフェアでは、６００万人を超える方々に花や緑、まちの魅力を大いに楽しんでいただきました。これも市造園協会の会員の方々の熱意と高い技術力の発揮の結果であると感謝しています。

横浜市では、このフェアの成果を一過性で終わらせることなく、これまでの取組を一層発展させ、花・緑・農・水のある環境を活かした市民、企業の皆様の参画によるまちづくりや賑わいづくり、観光・ＭＩＣＥの取組をすすめ「ガーデンシティー横浜」を推進していきます。

そして、そのリーディングプロジェクトが「ガーデンネックレス横浜」です。主な内容として、

・スプリングフェアなどの取組と連携した一体的な情報発信

・里山ガーデンの継続

・全市、地域における花や緑のイベント、取り組みを継続

・新たな花の名所づくりや地域の花の取組を発展

・「横浜ローズウィーク」の開催などの取組を進めていきます。フェアで高まった関心を、市民・企業・団体など多くの方々の参画により、行動・活動へつなげていくことがとても重要なことと考えています。そして国際園芸博覧会招致に向け機運の醸成につなげていきたいと思っています。

「横浜ローズウィーク」の開催

平成31年度春には新たなイベントとして「横浜ローズウィーク」を開催します。コアイベントとして新種のバラの発表や展示を行う「ばらフェスタ２０１９」を大桟橋ホールで予定しています。

また山下公園の「未来のバラ園」、港の見える丘公園の「イングリッシュローズの庭」「香りの庭」「ばらとカスケードの庭」や世界バラ会連合で優秀庭園賞を受賞した「横浜イングリッシュガーデン」など横浜が誇るバラ園を、港の風景や飲食を楽しみながら巡り歩くことができます。

このようなロケーションは東京や国内のどこにもない横浜の強みであると思います。関係する方々との連携やご協力をいただきながら、横浜のＰＲ、まちの活性化にもつながるように展開したいと思います。

ラグビーワールドカップ２０１９、東京オリンピック・パラリンピック２０２０の開催を契機に

横浜国際総合競技場（日産スタジアム）では、ラグビーワールカップでは、決勝を含む7試合、東京オリンピック・パラリンピック２０２０のサッカー男子の決勝含む11試合、横浜スタジアムでは野球・ソフトボールの決勝戦を含め31試合が予定されています。

両施設では順調に改修・増席工事が行われていますが、花と緑あふれる横浜をアピールする絶好の機会として、様々な取組を大会に合わせて実施していきたいと思っています。特に横浜の玄関口の一つである新横浜地区の花と緑の取組は重要と考えています。

暑さ対策と緑の機能

今年の夏はこれまでにない猛暑に見舞われ、日中街中を歩くのに街路樹の木陰をたどるような状況でした。様々な科学技術を駆使した対応も考えられますが、まちの環境を改善できるのは結局「緑」ではないのかと改めてその緑の役割、必要性を痛感しました。

さわやかな木陰を街や公園にしっかり作っていくために、緑化や維持管理が大切であると思っています。オリンピックが夏に開催されることからも暑さ対策が本格化していくと思います。

災害の備えを共に

日本各地で豪雨、台風による被害が発生しています。横浜市においても備えをしておくことは重要です。

みどりアップ計画の取り組みでは既に約１５０haの樹林地を市有地にしました。災害に備える整備や維持管理を引き続き行うとともに、災害時の対応についても考えておかなければなりません。

また、直下型地震のリスクも高まっています。阪神淡路大震災の時には、都市公園が避難地や延焼防止、自衛隊、消防・警察、ボランティアなどの救援救護の拠点として活用されました。発災時には一早く復旧し利用できる状況にしなければなりません。

このような対応は横浜市だけではなく、地域で活動されている事業者の方々の活躍なくしては対応できません。様々な対応を検討するうえで是非ご協力をお願いしたいと思います。

大きな災害時には地域業者の方々が最前線で活躍していますが、残念ながらほとんど報道されない状況もあります。もっと情報発信を行っていくことも重要だと思います。

緑への期待の高まり

緑の持つ多面的な機能や役割が改めて評価されてきています。国際社会においても、２０１５年9月「持続可能な開発サミット」が開催され、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）が掲げられましたが、緑が貢献できる分野は広くあります。

このような時代の変化に、これまでも柔軟に向き合ってきた公園緑地行政をさらに時代に合った取り組みに発展させていくことが求められていると考えます。

引き続き市造園協会の会員の皆様とともに進んでいきたいと思いますのでご理解ご協力をお願いしたと思います。

略歴

昭和57年　横浜市入庁
平成13年　横浜動物の森公園整備課長
平成17年　指定管理者制度担当課長
平成18年　環境政策担当課長
平成23年　瀬谷土木事務所長
平成26年　公園緑地部長
平成29年　みどりアップ推進担当理事

里山ガーデンフェスタ実行委員会の立ち上げと今後の活動

里山ガーデンフェスタ実行委員会

会長　上原　啓史

（公益財団法人横浜市緑の協会　理事長）

里山ガーデンフェスタ実行委員会の設立

横浜市は、平成29年3月25日から6月4日まで「第33回全国都市緑化よこはまフェア」（以下「よこはまフェア」という。）を開催しました。このよこはまフェアでは、愛称を「ガーデンネックレス」として、「まち」、「人」、「とき」をつなぎ、大都市でありながら、市民生活の身近な場所に様々な緑の環境を有してきたことに磨きをかけ、よこはまフェアの成果を未来へと継承していくことを提唱しました。

よこはまフェアでは、みなとガーデンとともに、よこはま動物園ズーラシアの隣に新たに整備した里山ガーデンがメイン会場となり、訪れた多くのお客様に横浜の花で彩った市内最大級約10,000㎡の大花壇や谷戸の花々のほか、里山ならではの森の新しい体験も楽しんでいただきました。よこはまフェアでは全体で600万人、里山ガーデンでは33万人を超えるご来場数を数えました。また、その年の秋の大花壇公開では、1か月で約9万人のお客様にもご来場いただき、思い思いに花や緑を楽しんでいただきました。

横浜という大都市にあって里山の緑や季節の花々は、人々に憩いの時間、うるおいと季節感を生み出し、街なかとは異なる魅力的な環境を創出するものとして貴重で大切な役割を果たします。

よこはまフェアで培われたこの緑の空間、環境を生かし、よこはまフェアの成果を今後に継承していくため、里山ガーデンにおいて、花や緑による魅力の創出を継続し、来場者に花や緑を身近に感じていただく取組みを推進していくことで「美しい花と緑豊かなまち　横浜」を実現していく契機としていくことを目的に、横浜市、関係団体の皆さまと平成29年12月4日に里山ガーデンフェスタ実行委員会を設立いたしました。

公益財団法人横浜市緑の協会の関わり

公益財団法人横浜市緑の協会は、市内の公園・動物園の指定管理を行うとともに、緑化推進に積極的に取り組んでいる団体です。よこはまフェアで当協会は、緑化推進事業として里山ガーデン会場の整備費の一部を負担するとともに、里山ガーデンに隣接し、当協会が管理するよこはま動物園ズーラシアの園内外で様々な植栽を行い、里山会場での盛り上げに積極的に協力いたしました。

秋の大花壇公開では、当協会は新たにズーラシアとの連携イベントを行い、来場された皆さまに両方の会場をお楽しみいただきました。

2018年春の里山ガーデンフェスタ

この春、「ガーデンシティ横浜」のリーディングプロジェクトとして、サクラ、チューリップ、バラなどで色鮮やかに彩られた山下公園をはじめとする「みなとエリア」と「里山ガーデン」の展開が「ガーデンネックレス横浜2018」として開催されました。

実行委員会として初の開催となる春の里山ガーデンフェスタは、平成30年3月24日（土）から実行委員の皆さま方のご協力をいただき、地域全体での盛り上げ、花苗の調達、情報発信により、5月6日（日）の閉幕までに15万人を超えるお客様にご来場いただきました。

市内産のパンジーやビオラ等を使った、春らしい優しいパステルカラーの大花壇の花々と満開の桜、周辺の緑がおりなす景観やウエルカムガーデン、谷戸の菜の花畑などに咲きほこった花々は、多くのお客様の目を楽しませました。また、地元の旭、緑、瀬谷区やズーラシアと連携したイベントは、地域一体となった里山ガーデンの魅力をさらに高めてくれました。

2018年秋の里山ガーデンフェスタと今後の展望

秋の里山ガーデンフェスタは、9月15日（土）から10月14日（日）で開催しました。コスモスをベースにした夕焼け色の鮮やかで美しい大花壇や三上真史氏デザインの野菜・ハーブで作る「目で味わう花と野菜のポタジェガーデン」で、秋の色彩に囲まれた花散歩にお誘いしました。

なお、秋開催分から、実行委員会で会場整備を行うこととなり、植物調達は、市内産を中心に大量の花苗を円滑に調達するため、里山ガーデンフェスタ植物調達協議会（横浜農業協同組合、横浜市造園協会で構成）の協力をいただきました。今回新たに、民間事業者の皆さまからの提案で「グリーン マルシェ」や「アウトドア・アクティビティパーク」等を開催し、新たな魅力を創出しました。

来春の開催は、平成31年3月23日（土）から5月6日（月・祝）の45日間を予定しています。

今後も里山ガーデンフェスタは、横浜を代表する花と緑のイベントとして、多くの市民の皆さまに楽しんでいただき、環境面ではもちろんのこと、観光面や産業面からも評価されるイベントとなるよう、多くの関係者の皆さまと共にその役割をしっかり果たしてまいりたいと存じます。

〈略歴〉
昭和31年　鹿児島県生まれ
昭和56年　千葉大学園芸学部卒業
昭和57年　横浜市入庁
平成16年　独立行政法人都市再生機構　課長
平成24年　公益財団法人横浜市緑の協会　動物園部長
平成28年　環境創造局みどりアップ推進担当理事
平成29年　公益財団法人横浜市緑の協会　理事長

第41回 通常総会を開催

5月23日ホテル横浜ガーデンにおいて第41回通常総会を開催。左記議案について審議し全て承認された。

《決議事項》
第1号議案　平成29年度事業報告（案）の件
第2号議案　平成29年度決算報告（案）の件
第3号議案　定款変更（案）の件

《報告事項》
第1号　平成30年度事業計画の件
第2号　平成30年度収支予算の件
第3号　就業規則変更の件

終了後、ご来賓をお招きしてハマの緑を育む集いを開催した。

林横浜市長の祝辞

副市長・小林一美様

横浜市造園協会の皆様、本日は第41回通常総会ハマの緑を育むつどいの開催、誠におめでとうございます。

皆様には市内の緑の育成と普及、更には市政全般に至るまで多大なご支援をいただいており、改めて厚く御礼申し上げます。

この春も皆様のお力添えによりまして、昨年の全国都市緑化よこはまフェアを継承する「ガーデンネックレス横浜2018」を開催しており、昨年に続き横浜の街が多くの花と緑で彩られ、市民の皆様の笑顔があふれております。里山ガーデンフェスタには、5月6日までの公開期間中に15万人を超える方々が来場されました。秋の里山ガーデンに向けても準備を進めております。

みなとエリアも大変好評で、これまで皆様と共に育み作り上げてきたハマの緑が、ガーデンネックレス横浜を通して多くの方々に認知されてきていることに、確かな手ごたえを感じています。

おかげさまで今年は、2期目の横浜みどりアップ計画が計画の最終年となる5年目を迎えています。目標達成に向けて着実に取組が進んでおり、今後の施策についても具体的な検討を進めております。

また公園事業では、身近な公園の整備に加えまして、小柴貯油施設跡地の公園など大規模な公園の整備を継続して進めております。旧深谷通信所、旧上瀬谷通信施設の土地利用についても引き続き検討を進めており、旧上瀬谷通信施設への国際園芸博覧会の招致につきましては、先般基本構想案を策定いたしました。

また今後横浜市内では、2019年にラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックと、国の内外から多くのお客様を迎える大規模な催しが続きます。この絶好の機会を捉えまして、花と緑にあふれる環境先進都市として世界の人々や企業を惹きつけると共に、市民の皆様の横浜に対する誇りが一層高まるようガーデンシティ横浜の取組を推進してまいります。皆様方の益々のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

結びに横浜市造園協会の益々のご発展と、本日ご列席の皆様のご健勝ご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。（小林副市長代読）

樹木に魅せられて（第35回）

樹林を残す「力」

横浜市環境創造局　政策調整部
技術監理課　担当課長
田畑　有紀子

序「この樹林はなぜ残っているのか？」

「この樹林は、なぜ住宅開発されずに残っているのか？」実家から見える林に感じたこの疑問が、自分の原点です。公園とお社がある美しい斜面樹林は、薄いにも関わらず、ケヤキの大木が林立する美しい姿で残り続けていました。この樹林が残り続けているのは何かの「力」が働いていると感じ、私も樹林を残す何かの「力」になりたい。そんな思いがきっかけで、造園の世界に入りました。

1 アイデアを活かして実現する造園業

造園業の方々と初めて仕事をしたのは、平成15年に異動した中部公園緑地事務所施設係の時です。当時は、樹木医の意見を取り入れた維持管理や大がかりな施設修繕など、難しい案件が起きると、よく現地で相談させていただきました。その際に感じたのが、造園業の方々のアイデアの豊かさと確かさです。市民や事務所の要望に応える工法・材料を提案していただき、出来栄えも美しく仕上げていただきました。曲線部や細部の収まりの良さ、剪定した樹形の美しさにほれぼれすることが多々あり、管理初心者だった自分は、頼もしい造園業の親方の作業を見学させてもらいながら、実務の様々を学びました。

2 「こうしたい」発想を支える実力

27年度には公園緑地整備課の担当係長として、港の見える丘公園のローズガーデンと沈床花壇の緑化工事に参画しました。色鉛筆でスケッチされたイメージを、どうやって現実のバラ園に展開するか。夢広がる難題に、横浜市とデザイナーの先生、設計監理者、施工者が一堂に集まって、事務所に膝詰めで検討を繰り返しました。

勝負どころは特に、施工の各段階でいかにイメージを擦り合わせるか、また、決定内容を施工各社にどう徹底してもらうか。ここにも、造園業の方々の力が如何なく発揮されました。入手困難な材料には代案を用意し、先生には変更のイメージを都度スケッチブックに描いていただいて、レンガは試験組み、石組みのベンチはほぼ実物のモデルを現場に設置して確認。花など材料検品立ち会いも、全て段取りも見事に行われました。さらに工事完成後の育成管理が徹底されたことで、全国都市緑化よこはまフェアでは全国からのお客様に、夢描かれた庭園が現実となった姿をご覧いただくことができました。

3 伝統から新技術まで広がる期待

29年度から技術監理課担当課長として、造園業の方々と共に技術を高めあう技術交流会等の機会をいただいています。造園に求められる技術分野が、ますます多彩に幅広になってきたことを感じています。

伝統的な庭園技術の継承や、樹林地の育成管理、i-Construction など新技術への対応。横浜の造園を支える造園業の皆様と市役所が共に技術向上を目指して、更なる技術の継承・開発をすることが期待されています。

結「この樹林」が残っていた理由

原点である樹林地が、なぜ残っているか。風致地区指定と都市公園という保全の網がかかっていること、国有地であり一般住宅化の見通しがないこと等の理由が後にわかりましたが、それにも増して、技術の高い造園関連の方々がハードソフト両面で支えているから、斜面樹林を健全に維持管理できるのだろうと思います。

全ての技術は、誰かの大切な公園緑地を次世代まで引き継ぐことに繋がります。今後も、造園業の皆様と共に、造園技術を学び育んでいきたいと思います。

労働安全衛生大会を開催

7月9日ホテル横浜ガーデンにおいて「平成30年度労働安全衛生大会」を開催した。

横浜南労働基準監督署長　古屋強様、横浜市環境創造局　みどりアップ推進担当理事　橋本健様、横浜市財政局公共施設・事業調整室長　髙木勇一様、横浜市道路局　道路部長　中村信治様、はじめ各局幹部および各区土木事務所長の方々をご来賓にお迎えした。

本年度も労働災害ゼロを目標として、安全標語入選者表彰（標語応募総数249）・安全宣言を行い、古屋労働基準監督署長による「平成30年度全国安全週間にあたり」についてのご講演をいただいた。

また㈱健康Life体操S&S　インストラクター有賀 暁子 様を講師に迎え、「頭と体スッキリ！快適な毎日の為のストレッチ体操」と題して脚・腰を鍛えるストレッチ体操のご講演をいただいた。

入選標語

最優秀賞

危険の芽　気付いたその場で即対応
みんなで守る　職場の安全
日光緑化建設㈱　藤原浩二

優秀賞

何か違う？
いつもと違うはすぐ確認
慣れた作業に潜むミス
基本に戻って安全作業
小島造園㈱　富田幹雄

安全は、
意識と努力の積み重ね、
急がず焦らず確実に
田口園芸㈱　早坂尚生

力を合わせて作り出す
ゼロ災職場は社員の誇り
創意工夫の努力が実る
みんなで築く安全管理
㈱田澤園　荒木由美子

一人一人がルールを守り、
初心に戻って安全作業、
めざせ安心ゼロ災害
一造園土木㈱　河合龍也

委託安全パトロールを実施

実施日　7月27日

実施案件

公園維持業務委託（都筑区）
街路樹維持業務委託（青葉区・栄区・金沢区）

実施結果

優良事項

・強風対策として、業務看板等にウエイトを付けていた。
・熱中症・蜂刺され対策グッズを携帯していた。
・ゴーグルを装着していた。

軽微な指摘事項

・作業車の輪止めが不十分であった。
（平地・傾斜地を含む）
・携行缶の不使用が一部に見られた。
・歩行者通路が確保されていない。
（カラーコーンがまだ有るのに使用されていない）
・消火設備に不備があった。
（消火器の使用期限切れ）

総評

・作業責任者の一時不在時の体制について

発注者打合せなど、作業責任者が現場を離れる際には、必ず代理責任者を配置し、緊急時連絡体制を確保する。

・輪止めの設置について

塵芥車など作業車には、作業時・停車時・平地・傾斜地に係らず輪止めを設置し、安全管理の一環とし、事故防止に努める。

・作業機械などの燃料（ガソリン・混合油）の取り扱いについて

灯油用容器・ペットボトルなどには入れずに、必ず携行缶を使用する。

瀬谷道路まつり2018に出展協力

8月24日、相鉄線瀬谷駅北口広場に於いて恒例の瀬谷土木事務所主催「瀬谷道路祭り2018」に当協会瀬谷区の会員6社が出展協力をした。

花の種・はまっ子ユーキ・よこはま動物園ズーラシアうちわ等の無料配布をした。当日は台風の影響により規模を縮小しての開催となったが、多くの来場者で賑わった。

平成30年度「ひろげよう 育てよう 緑の都市」全国大会
国土交通省都市整備局長賞を受賞

平成30年度「ひろげよう育てよう　緑の都市」全国大会において、横浜公園日本庭園「彼我庭園」（横浜市環境創造局・当協会・㈱港南植木ガーデン）が国土交通省都市局長賞を受賞した。これは、当協会と横浜市が協定を結び、公民連携事業として実施した講習会形式による竹垣改修の取り組みによるものである。

庭園に市の歴史や文化を反映した門や雪見灯籠などの施設を整備するとともに、日本の伝統的な造園技術である竹垣の改修の技術交流会を公開で行い、大勢の来園者に日本の伝統技法や造園技術を披露・周知を行った事が評価された。

横浜公園は２０２０年の東京五輪の会場となっており、国内のみならず海外からも多数の来園者が見込まれることから、今後、本取組によって更なる魅力が向上した彼我庭園を通じて日本の伝統や文化、海外との交流の歴史を振り返る契機となることが期待される。

横浜市造園技術交流会
造園技術伝承研修会を開催

3月24日から開催された「ガーデンネックレス横浜２０１８」の開催地の一つである横浜公園内「彼我庭園」において、自然石の石張り及び竹垣の補修を研修形式で行った。日本古来の作庭技術の伝承及び若手技術者の教育に貢献することを目的として横浜市と協定を結び開催した。

自然石乱張り

開催日　5月16日・17日
場所　横浜公園内彼我庭園
講師　大胡周一郎氏（横浜マイスター・建設マイスター・現代の名工等）
参加者　横浜市職員20名、会員49名
実施内容
自然石石張り（切石・霰こぼし市松張り・自然石乱張り）
竹垣（竹一段柵改修・ななこ垣改修・しゅろ縄の結束指導）

公園施設見学研修会を開く

①ふなばしアンデルセン公園
多くの来園者数（年間90万人）と高いリーピート率を誇る当公園は、平成19年全国都市緑化フェアの開催跡地である。緑化フェア閉幕以降の、会場の有効利用や管理運営面において、成功例の見学という視点から訪れる。

②コマツーoTセンター東京
現在、建設業界が直面している諸課題（熟練労働者不足、生産性向上、品質確保、安全性向上など）に対応する、情報化施工（ＩＣＴ施工技術）の普及に対し、講義や体験を通し理解を深める。

参加者　50名（環境創造局2名を含む）

実施内容
ふなばしアンデルセン公園

・ボランティアガイドによる園内案内
・緑化フェア閉幕直後の回顧及び現在の集客に至るまでの経過
・管理運営面の工夫

コマツーoTセンター東京『単独（貸切）セミナー』
・ＩＣＴ建機のデモンストレーション見学
・ドローン（無人ヘリ）の現況測量見学
・ＩＣＴ建機の試乗

第35回全国都市緑化やまぐちフェアに花壇を出展

9月14日～11月4日まで、第35回全国都市緑化やまぐちフェアが、山口きらら博記念公園で開催された。

当協会は横浜市と協定を結び花壇の作成を行った。

デザインを会員から募集し審査の結果㈱田澤園の図案を採用し、施工は（一社）日本造園建設業協会山口県支部に依頼した。

2018日本フラワー&ガーデンショウに協賛

（公社）日本家庭園芸普及協会が主催する、２０１８日本フラワー＆ガーデンショウにおいて子供向け職業体験イベント「花と緑の職業体験」で、「造園やさん」コーナーを出展した。

子供たちに造園の仕事の魅力を伝え、また、来場者に横浜市造園協会のＰＲを行った。

日程　4月20日～22日
会場　パシフィコ横浜Ａ・Ｂホール
参加対象者　幼稚園児、小学生、中学生
参加人数　１１８名
内容
・作業着と帽子を着用し造園について学ぶ。
・ブース内に設置した坪庭で日本庭園を実際に肌で感じてもらった。
・ヒノキの枡に砂利や置石、苔を配置し、箱の中に小さな日本庭園を作成した。
・実物の竹を手に取ってもらい、素材や香りを体験してもらった。

新入会員

会社名　二代産業㈱
代表者　代表取締役　齋田裕貴
所在地　保土ケ谷区川島町１４９８―１０
入会日　8月1日

よこはま花と緑のスプリングフェア２０１８「花壇展」

よこはま花と緑のスプリングフェア運営委員会に協賛し当協会員に出展をお願いしている、よこはま花と緑のスプリングフェア２０１８「花壇展」が開催された。

期間　4月13日～5月6日
会場　象の鼻パーク

㈱滝川園「メルヘンロード」

■コンクール結果■
横浜市長賞・市民賞　㈱滝川園「メルヘンロード」
横浜市会議長賞　㈲ウィステリアグリーン「春の贈り物」
横浜市環境創造局長賞　横浜植木㈱「春、溢れる」
（公財）横浜市緑の協会理事長賞　㈱植勘「復興の兆し」
神奈川新聞社賞　三和造園土木㈱「春の散歩道」
みどりアップ奨励賞　㈱春峰園「輪廻」
〈出展協力社〉受賞者を除く
㈱港薬品造園・横浜農業協同組合・相武造園土木㈱・㈲福岡造園・㈱新正園・㈱貝塚造園・四季造園㈱・㈱笹山植木・金子園芸㈱・横浜庭苑㈱・㈱大和園・㈱金沢臨海サービス・㈲エムテックグリーン・㈱小菅造園・㈲日向山庭園
以上21社出展

訃報

粟飯原勉氏（6月18日）享年72
㈱濱田園
代表取締役社長
長年にわたり、理事としてご尽力いただきました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。